

姫路市文化芸術振興ビジョン改定に係る 文化団体アンケート調査結果報告書

令和8年7月

姫 路 市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 調査内容	1
6. 回収結果	2
7. 集計結果	2
8. 調査結果の記載について	2
II. 団体の概要	3
1. 活動分野 (MA)	3
2. 構成人数 (SA)	4
3. 構成人数の増減 (SA)	5
4. 構成人数で1番多い世代 (SA)	5
5. 団体の構成人数を増やす又は次世代育成のために、実践している取り組み (FA)	6
III. 団体の活動状況	10
1. 活動場所 (MA)	10
2. 活動頻度 (SA)	12
3. 活動場所として重視すること (MA)	13
4. 成果発表の機会の有無 (SA)	14
5. 成果発表の場所 (MA)	15
6. 成果発表の頻度 (SA)	16
7. 成果発表の場所として重視すること (MA)	17
IV. 活動への意向	18
1. 活動に関する課題	18
2. 市が力を入れるべき施策 (MA)	19
V. 姫路市の文化芸術振興について	20
1. 姫路市の文化芸術振興についての意見 (FA)	20

I. 調査の概要

1. 調査目的

姫路市では、文化振興施策を計画的に推進するため、令和3年に「姫路市文化芸術振興ビジョン」を策定しました。本ビジョンの計画期間は令和8年度までとなっており、ビジョンの改定に向け、本市の文化芸術に関する現状及び課題を分析し、基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査対象

公益財団法人姫路市文化国際交流財団が3年に1度作成する
「姫路地方文化国際交流団体名簿」に掲載された文化団体 427団体

3. 調査方法

郵送による配布（回収は郵送またはインターネット）

4. 調査期間

令和7(2025)年5～6月（締切期日以降に回収したものも含む）

5. 調査内容

- ・ A4版4ページ（15設問）
- ・ 令和2(2020)年4～5月に実施された同様の文化団体アンケートの集計結果と、比較分析を行います。

項目	主な内容
団体の概要	活動分野、構成人数、構成人数の増減、構成人数で1番多い世代、団体の構成人数を増やす又は次世代育成のために、実践している取り組み
団体の活動状況	活動場所、活動頻度、活動場所として重視すること、成果発表の機会の有無、成果発表の場所、成果発表の頻度、成果発表の場所として重視すること
活動への意向	活動に関する課題、市が力を入れるべき施策
姫路市の文化芸術振興について	市の文化芸術振興についての意見

6. 回収結果

配布数	回収数	有効回収数	回答率
427	198 (紙回答 187件、電子回答 11件)	198	46.4%

7. 集計結果

- ・単純集計のみ実施します。

8. 調査結果の記載について

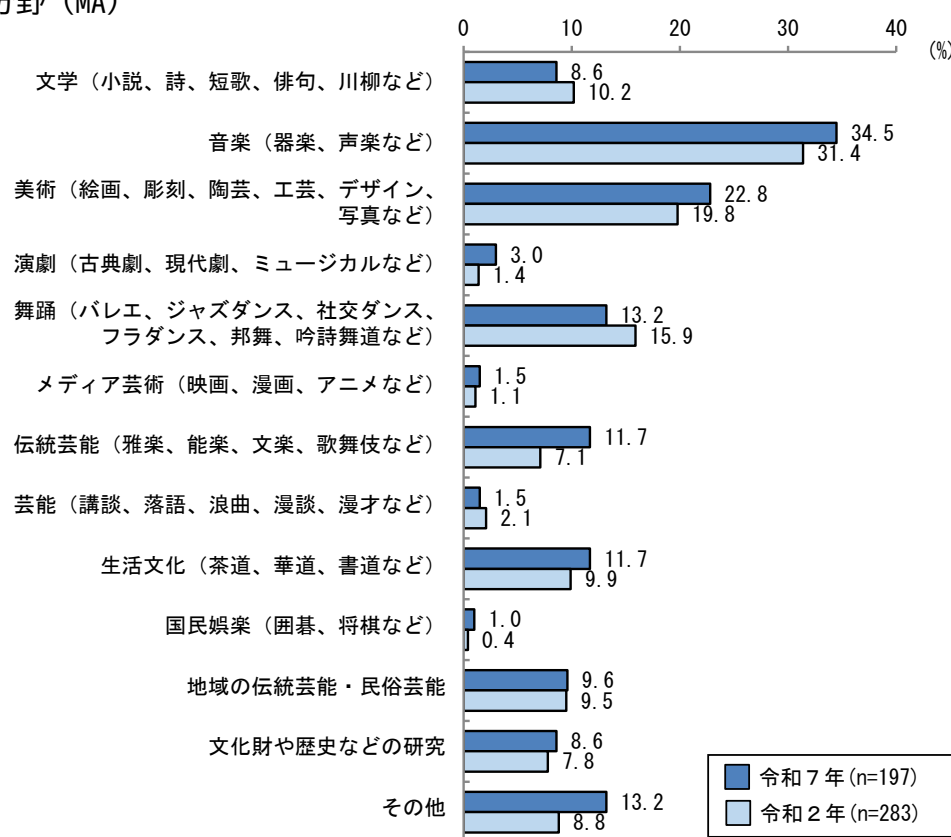
- ・設問名などに記載されている (SA) (MA) (FA) は、それぞれ単数回答、複数回答、自由回答の設問に関する集計であることを表します。
- ・集計表の単位は上段が件数 (件)、下段が全体に占める割合・構成比 (%) を表します。
- ・集計表の「-」は回答がなかった (件数がゼロ) ことを表し、斜線は不明または除外したデータであることを表します。
- ・集計表やグラフに記載されている「n」は設問に対する対象者を表し、構成比を算出する際は「n」を基数とします。
- ・ただし、令和2年に実施された前回の集計結果と比較するため、「不明・無回答」を除いた全回答総数を基数「n」として構成比を算出します。
- ・複数回答の設問については、構成比 (%) の合計が100%を超えることがあります。
- ・構成比 (%) は小数点以下第2位を四捨五入しており、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・自由意見 (その他や具体的名称等) については、文意を変えずに修正・簡略化している場合があります。
- ・集計表やグラフにおいて構成比が5%を下回る選択肢については、複数の選択肢をまとめて集計している場合があります。
- ・集計表やグラフにおいて長文となる選択肢等については、簡略化している場合があります。

Ⅱ. 団体の概要

1. 活動分野 (MA)

- 活動分野については、「音楽（器楽、声楽など）」が34.5%で最も多く、次いで「美術（絵画、彫刻、陶芸、工芸、デザイン、写真など）」が22.8%、「舞踊（バレエ、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、邦舞、吟詩舞道など）」が13.2%となっています。
- 前回調査でも、「音楽（器楽、声楽など）」が31.4%で最も多く、次いで「美術（絵画、彫刻、陶芸、工芸、デザイン、写真など）」が19.8%となっており、前回よりも「伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）」が4.6ポイント、「音楽（器楽、声楽など）」が3.1ポイント、「美術（絵画、彫刻、陶芸、工芸、デザイン、写真など）」が3.0ポイント増加しています。

■活動分野 (MA)

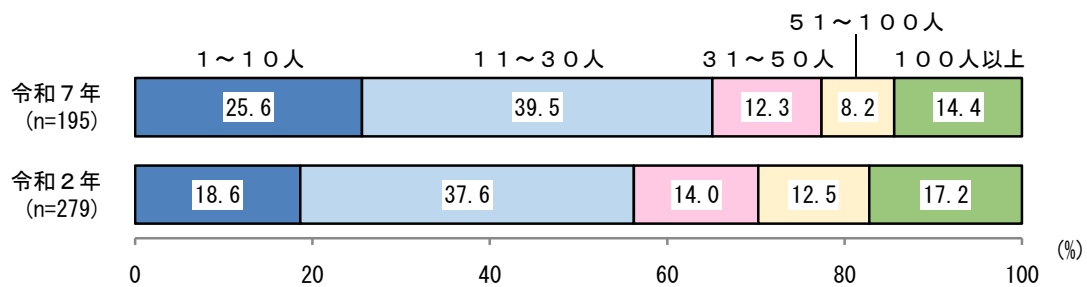


	n	文学（小説、詩、短歌、俳句、川柳など）	音楽（器楽、声楽など）	美術（絵画、彫刻、陶芸、工芸、デザイン、写真など）	演劇（古典劇、現代劇、ミュージカルなど）	舞踊（バレエ、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、邦舞、吟詩舞道など）	メディア芸術（映画、漫画、アニメなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才など）	生活文化（茶道、華道、書道など）	国民娯楽（囲碁、将棋など）	地域の伝統芸能・民俗芸能	文化財や歴史などの研究	その他
令和7年	197	17	68	45	6	26	3	23	3	23	2	19	17	26
	100.0	8.6	34.5	22.8	3.0	13.2	1.5	11.7	1.5	11.7	1.0	9.6	8.6	13.2
令和2年	283	29	89	56	4	45	3	20	6	28	1	27	22	25
	100.0	10.2	31.4	19.8	1.4	15.9	1.1	7.1	2.1	9.9	0.4	9.5	7.8	8.8

2. 構成人数（SA）

- 構成人数については、「11～30人」が39.5%で最も多く、次いで「1～10人」が25.6%、「100人以上」が14.4%となっています。
- 前回調査でも「11～30人」が37.6%で最も多く、次いで「1～10人」が18.6%、「100人以上」が17.2%の順となっており、前回よりも「1～10人」が7.0ポイント増加しています。

■構成人数（SA）

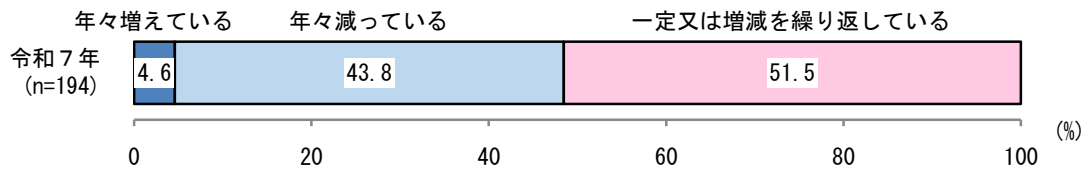


	n	1 ～ 10 人	11 ～ 30 人	31 ～ 50 人	51 ～ 100 人	100 人 以上
令和7年	195	50	77	24	16	28
	100.0	25.6	39.5	12.3	8.2	14.4
令和2年	279	52	105	39	35	48
	100.0	18.6	37.6	14.0	12.5	17.2

3. 構成人数の増減（SA）

- 構成人数の増減は、「一定又は増減を繰り返している」が51.5%で最も多く、次いで「年々減っている」が43.8%、「年々増えている」が4.6%となっています。

■構成人数の増減（SA）

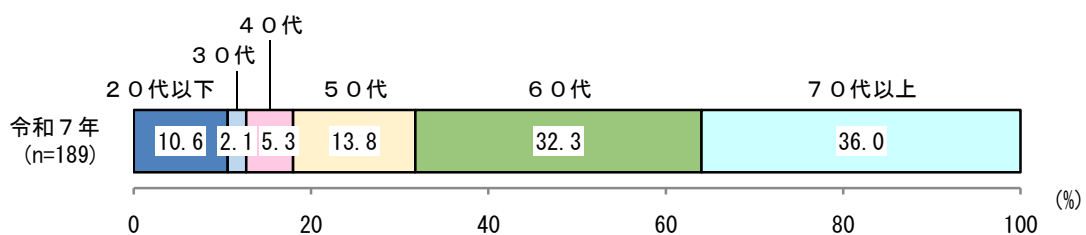


	n 数	年々 増え てい る	年々 減っ てい る	返一 定又 は増 減を 繰り 返す
令和7年	194 100.0	9 4.6	85 43.8	100 51.5

4. 構成人数で1番多い世代（SA）

- 団体の構成人数で1番多い世代は、「70代以上」が36.0%で最も多く、次いで「60代」が32.3%、「50代」が13.8%となっています。

■構成人数で1番多い世代（SA）



	n 数	20 代 以 下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代 以 上
令和7年	189 100.0	20 10.6	4 2.1	10 5.3	26 13.8	61 32.3	68 36.0

5. 団体の構成人数を増やす又は次世代育成のために、実践している取り組み（FA）

- 団体の構成人数を増やす又は次世代育成のために、実践している取り組みについて自由記入欄を設けてご意見を伺いました。
- 複数のご意見が含まれるものは内容により分割後、分類しています。

各種教室・体験会の開催
15年間小中学生親子教室を開催しています。
礼節におもんじる詩歌吟詠を通じ心・技・体の強化。特に若者に人気の吟詠歌謡による剣詩舞道を強化実施中
小中学生対象にした教室の実施
体験会を開催する。
文化庁の助成事業で伝統文化「琴体験教室」「三絃体験教室」を小学1年生から高校生まで琴・三絃を各都市に30年来継続して開催中
作品制作が活動の本位でやってきましたが、視野を広げ美術の幅を広げ魅力のある会になるためにも美術講座の形式において版画やデザイン表現の基礎などをとりいれています。
公民館活動
研修会の実施
文化庁無料体験。日本舞踊親子教室
文化庁親子教室
特別講座、自主講座の充実。
親子詩吟教室、体験詩吟教室
教室の開催
若い世代に体験教室をしている。
龍門寺大衆禅道場の開設。座禅会
一日講習会、ワークショップ開催
催しものには是非ご招待して体験学習を！！
体験教室の実施
公開稽古の実施
指導者を育てるための勉強会を月一回程度実施している。
全日本写真連盟、兵庫県本部主催の初心者写真教室を開催
我が家を利用して煎茶会をする事
我が家で煎茶会・花会をする事
我が家で煎茶会を行う
年一回写真教室を行っています
健康でせいかつできるような講座等を計画しています。
大阪の方でコースセミナーや土木の学校を開催して次世代につながる取り組みを実施しているが…。
公民館にて講座を開き地道な活動の展開
各地区の公民館、集会場にて短歌教室を開催。
講演会などの文化・学術イベントの実施。
子供茶道教室を開いたり、学校茶道に力を入れており、青年部でもいろいろ行事をして関心を持っていただくよう頑張っております。
体験(大人)活動・子供絵画教室は1回目無料体験
いけばな体験を実施し一人でも多くの門人者を獲得するよう努力をしている。
小中学生の参加や体験教室
子供さんや老人の方々にもできる体験を実践しています。
練習などふれる機会をふやすと言うコツコツした積みあげが大切だと思っています。そして発表することも意味あることと思います。
朗読教室
小中学生による席上揮毫会

公民館活動。老人大学（好古学園大学校クラブ活動）
演奏会、発表会等でPR
演奏会でのPR
公募展、スケッチ会、作品研究会。
演奏会に小中学生が参加し尺八教室開催で教えたことを披露してもらう。
イーグレ姫路市民ギャラリーをお借りして毎年発表会（制作した作品）を行っている。
作品展開催時には新人展の枠をつくり次世代への推進に力を入れている。
展覧会等に積極的に行き作品を前にして話をしている。
神社及び仏教寺でのステージ
華展を開催する。
展示会のおり、呼びかけ
若い人たちが出品しやすいような企画を実践している。例えば小作品部門を設定したり若い人を役員に抜擢するなど運営に主体性を持ってもらっている。
楽しく活動している姿を発表の場などを通してみていただく。
講演会の実施
定期講演会でのお声かけ
毎年グループ展をしている。
幼少年が主役の発表会を開催
盆栽手入れ。講習会展示会。育成。盆栽販売
ピアノ発表会なので情操教育の一環として脳の発達。人前での度胸をつける。
若者層の出展者を増やすために出品料の軽減化を検討中
展覧会の開催
ミュージック＆ダンスフェスティバル「姫音祭」の開催
合唱祭等の参加
展示会の充実
作品展を通じ新たな会員を増やそうとしていますが、問合せは有するものの会員増にはつながらないのが残念です
展示会、個展等開催
公演回数の拡大
地域香寺公民館でジョイントコンサート開き、楽しさを伝え声を出して歌うことが健康につながることでと誘っている。
今は高齢でしていませんが、数年前までは、子供の指導（ボランティア）や老人施設でのボランティアでよくしていました。今は文化にあまり興味がないようですが、ふれあう機会を多くすればよいかと思います。
日々の練習や本番における演奏の質を上げることが大切だと思います。
発表して口コミで参加者増やすように心がけています。
春の好古園いけばな展、観桜会、姫路茶華道大会など姫路市内の各イベントには積極的に参加させていただいています。
毎月司所研究会を実施し、実働師範としての研鑽を積んでいただいている。姫路茶華道会や兵庫県いけばな協会など諸流派展には積極的に出願し流の作品をアピールしている。
毎年演奏会
公民館などでの展示会
作品発表展示会を開いて、広く市民に公開している。
紹介、勧誘、性別年齢を問わず募集
若い会員より友人に勧誘をしてもらっている。
どの年齢層もすきまなく団体に取り入れる工夫。
男女年齢を問わず会員を募集している。
勧誘親が子に、友が友に
知り合いを通じて、年齢を問わず同志を集っている。
友人、知人の紹介で増員してますが会員が高齢のため苦勞してます。
友人や友人の子弟に声かけ。
周りの人に声をかける。
会員からの紹介

現会員の後輩や関係者からの紹介。
小学、中学、高校である。団体構成員の周辺人員を団体の活動に積極的に参加させている。
個人的に声かけをし、活動に興味や共感いただけたら活動に参加していただいている。
知人、友人等に声掛けし入団の勧誘したり、発表会に聞きに来てもらったりして団体のアピールしている。
SNS等でのPR
SNS での PR
SNS にて拡散。
ホームページ作成
ブログ SNS などでの宣伝
SNS 発信
Instagram 配信
Instagram、facebook、You Tube 等への配信、講習会一流ダンサーの招聘
ホームページで行事案内を掲載して会員募集を行っている。
SNS で発信している。
1 日体験などのワークショップをインスタグラムや LINE など発信
ズーム等で、実際に足を運ばなくても、日本刀の勉強ができるようにしています。
インターネットの SNS（インスタグラムや LINE）を使って発信している。
イベントに参加
地域の催しもの等には積極的に参加しています。
イベントへの参加
イベント等への参加
随願寺の年間行事にかかわり持ち、次世代の方々に参加して頂くようにしてます。
誰もが参加できるよう、色々なイベントに参加するよう心がける。
イベントに出場し知ってもらう。
当該事業以外の地域行事において、参加の呼びかけを行っている。
会報、ポスター、チラシの発行
会報・ポスターの発行
宣伝チラシ等の掲示及び配布。
出版物の充実。
広報等で募集広告
チラシ配布
団体の紹介、募集ポスターの掲示
見学者を受け入れる
見学される希望の方々には快く受けています。
文化財（歴史、有形文化財、無形・無形民俗文化財）見学研修の企画
見学者への説明案内
全国の椿園等の見学会
練習状況を見学してもらう。
若い世代とのコラボレーション
高校生など若い人とのコラボレーションや、出前講座的なものを学校に出かけて行う。
若い世代との時間合わせが困難に成りますので、時代別と言うより若者との組み合わせ方を考え中です。
若い年齢層の方々との合同演奏
幼稚園、小学生、中学生との活動をこころがけている。
若い世代への参加の呼びかけ。ステージの案内。学生グループとの共演。
その他情報提供
小中学生の参加が増えてきたので興味を持ってもらえるよう情報提供などを行っている。
誌上での募集等
ミニコミ紙に体験教室の募集掲載をする。
交流会を実施
年一回の交流会（異文化）。
自宅をサロン風にして、いつでも語り体験して頂いてます。交流の場を国際交流も含めています。

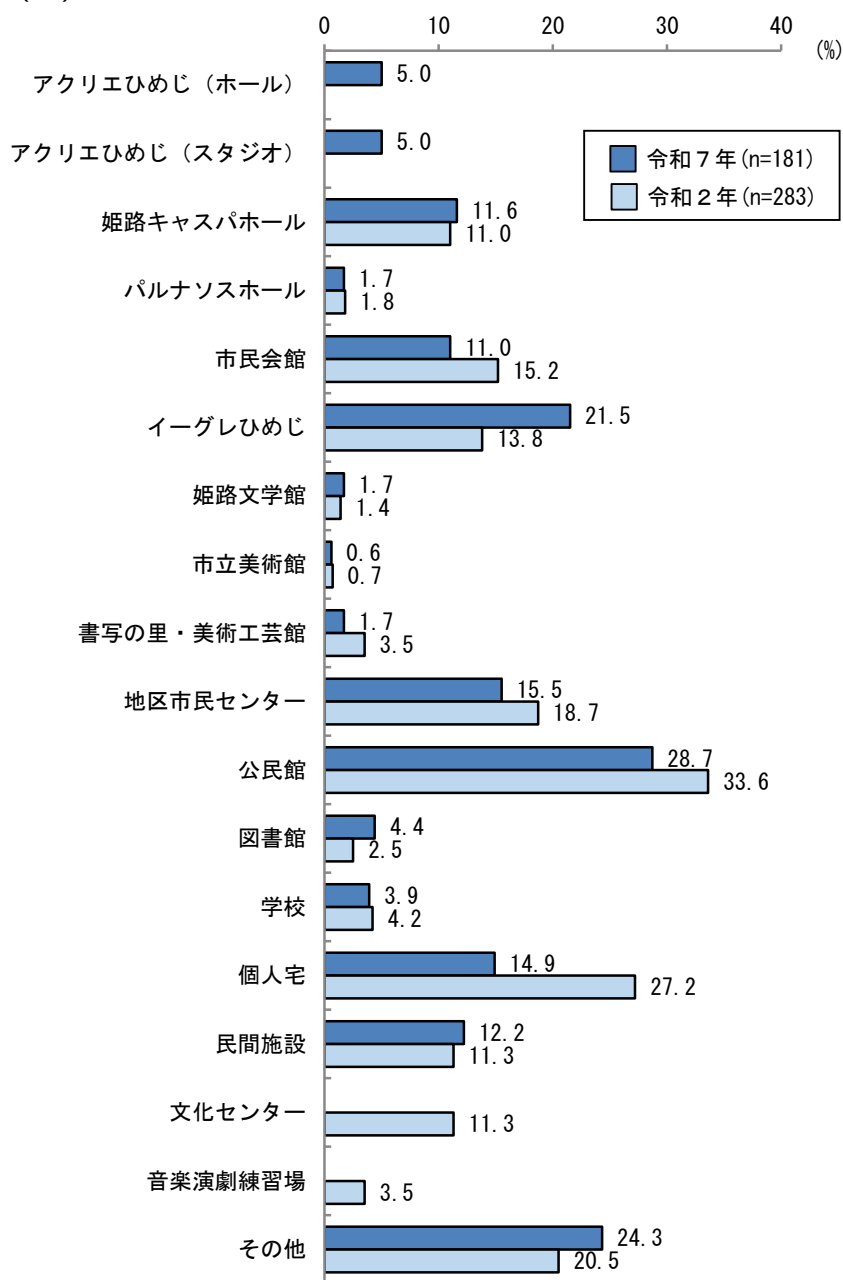
多種にわたる交流の拡大と充実
その他
文化庁/文化財総合活用推進事業（地域伝統行事・民族芸能等継承振興事業）の支援
小学生のボランティア活動の育成。
部活動の地域移行に向け対応を考えている。
ゆるやかな組織運営
説明会
作品をできるだけ多くの人に送ったり手渡す。
準団員制度を創設してつながりを増やす。
色々プランはありましたが、加齢により行動力が低下してなかなか難しいですね。
子育て世代の会費を年配の人達で負担している。
学校クラブ活動での指導
市民文化祭が取り止めになった時点でグループ数は半減した。人員の増減は成り行きに任せている。
新しいクラスを1グループ（増）結成しました。
小学校、高齢者施設、他へボランティア活動実施。
目立つ取り組みはありません。
学校の部活動を楽しむ 会員の要望を聞く 等
本会は学校卒業生の会であるため次世代育成のための特別な取り組みは行っていない。

Ⅲ. 団体の活動状況

1. 活動場所（MA）

- 活動場所については、「公民館」が28.7%で最も多く、次いで「イーグレひめじ」が21.5%、「地区市民センター」が15.5%、「個人宅」が14.9%となっています。
- 前回調査でも「公民館」が33.6%で最も多く、次いで「個人宅」が27.2%、「地区市民センター」が18.7%、「市民会館」が15.2%の順となっており、前回より「個人宅」が12.3ポイント、「公民館」が4.9ポイント減少し、「イーグレひめじ」が7.7ポイント増加しています。

■活動場所（MA）



※「アクリエひめじ（ホール）」「アクリエひめじ（スタジオ）」は今回調査の新規項目。
「文化センター」「音楽演劇練習場」は前回までの調査項目。

	n 数	アクリエひめじ (ホール)	アクリエひめじ (スタジオ)	姫路キャスパ ホール	パルナソス ホール	市民会館	イーグレひめじ	姫路文学館	市立美術館	書写の里・美術 工芸館
令和7年	181 100.0	9 5.0	9 5.0	21 11.6	3 1.7	20 11.0	39 21.5	3 1.7	1 0.6	3 1.7
令和2年	283 100.0			31 11.0	5 1.8	43 15.2	39 13.8	4 1.4	2 0.7	10 3.5

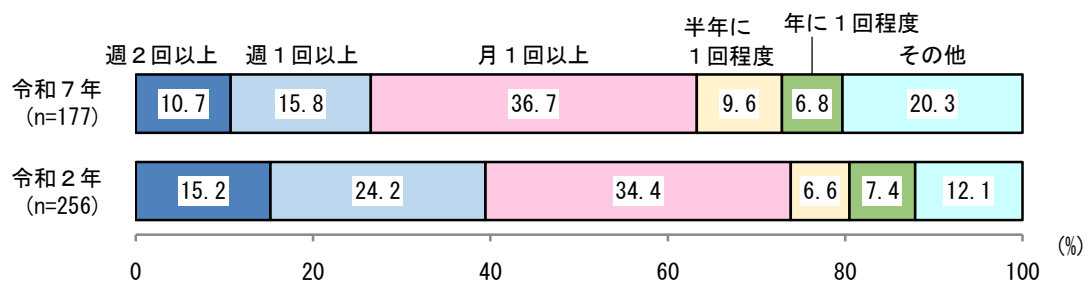
	n 数	地区市民セン ター	公民館	図書館	学校	個人宅	民間施設	文化セン ター	音楽演劇練 習場	その他
令和7年	181 100.0	28 15.5	52 28.7	8 4.4	7 3.9	27 14.9	22 12.2			44 24.3
令和2年	283 100.0	53 18.7	95 33.6	7 2.5	12 4.2	77 27.2	32 11.3	32 11.3	10 3.5	58 20.5

※「アクリエひめじ（ホール）」「アクリエひめじ（スタジオ）」は今回調査の新規項目。
「文化センター」「音楽演劇練習場」は前回までの調査項目。

2. 活動頻度（SA）

- 活動頻度については、「月1回以上」が36.7%で最も多く、次いで「週1回以上」が15.8%、「週2回以上」が10.7%となっています。
- 前回調査でも「月1回以上」が34.4%で最も多く、次いで「週1回以上」が24.2%、「週2回以上」が15.2%の順となっており、前回より「週1回以上」が8.4ポイント、「週2回以上」が4.5ポイント減少しています。

■活動頻度（SA）

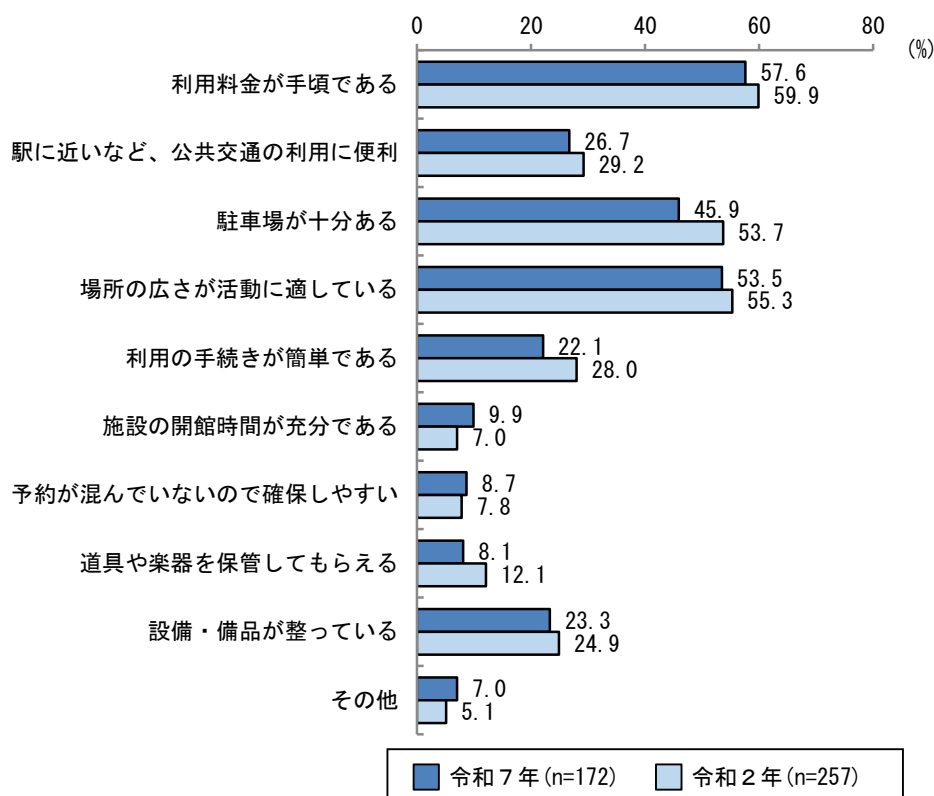


	n	週2回以上	週1回以上	月1回以上	半年に1回程度	年に1回程度	その他
令和7年	177	19	28	65	17	12	36
	100.0	10.7	15.8	36.7	9.6	6.8	20.3
令和2年	256	39	62	88	17	19	31
	100.0	15.2	24.2	34.4	6.6	7.4	12.1

3. 活動場所として重視すること（MA）

- 活動場所として重視することについては、「利用料金が手頃である」が57.6%で最も多く、次いで「場所の広さが活動に適している」が53.5%、「駐車場が十分ある」が45.9%、「駅に近いなど、公共交通の利用に便利」が26.7%となっています。
- 前回調査でも「利用料金が手頃である」が59.9%で最も多く、次いで「場所の広さが活動に適している」が55.3%、「駐車場が十分ある」が53.7%の順となっており、前回より「駐車場が十分ある」が7.8ポイント、「利用の手続きが簡単である」が5.9ポイント減少しています。

■活動場所として重視すること（MA）

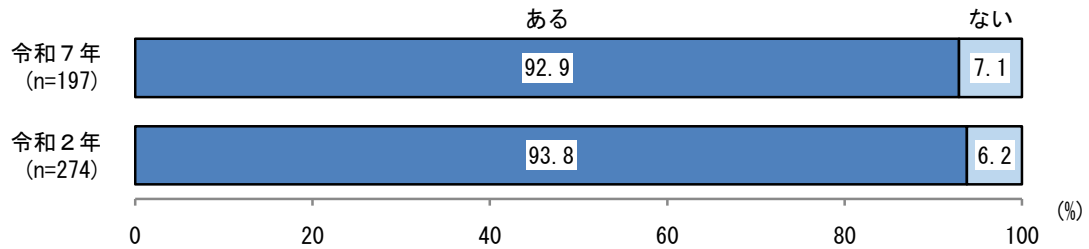


	n 数	利用 料金 が手 頃で ある	利 用 に 近 い な ど、 公 共 交 通 の	駐 車 場 が 十 分 あ る	い 場 所 の 広 さ が 活 動 に 適 し て	利 用 の 手 続 き が 簡 単 で あ る	施 設 の 開 館 時 間 が 充 分 で あ る	保 予 し 約 が 混 ん で い な い の で 確 保	え 道 具 や 楽 器 を 保 管 し て も ら え る	設 備 ・ 備 品 が 整 っ て い る	そ の 他
令和7年	172 100.0	99 57.6	46 26.7	79 45.9	92 53.5	38 22.1	17 9.9	15 8.7	14 8.1	40 23.3	12 7.0
令和2年	257 100.0	154 59.9	75 29.2	138 53.7	142 55.3	72 28.0	18 7.0	20 7.8	31 12.1	64 24.9	13 5.1

4. 成果発表の機会の有無（SA）

- 成果発表の機会の有無については、「ある」が92.9%、「ない」が7.1%となっています。
- 前回調査でも「ある」が93.8%、「ない」が6.2%となっており、大きな差はみられません。

成果発表の機会の有無（SA）

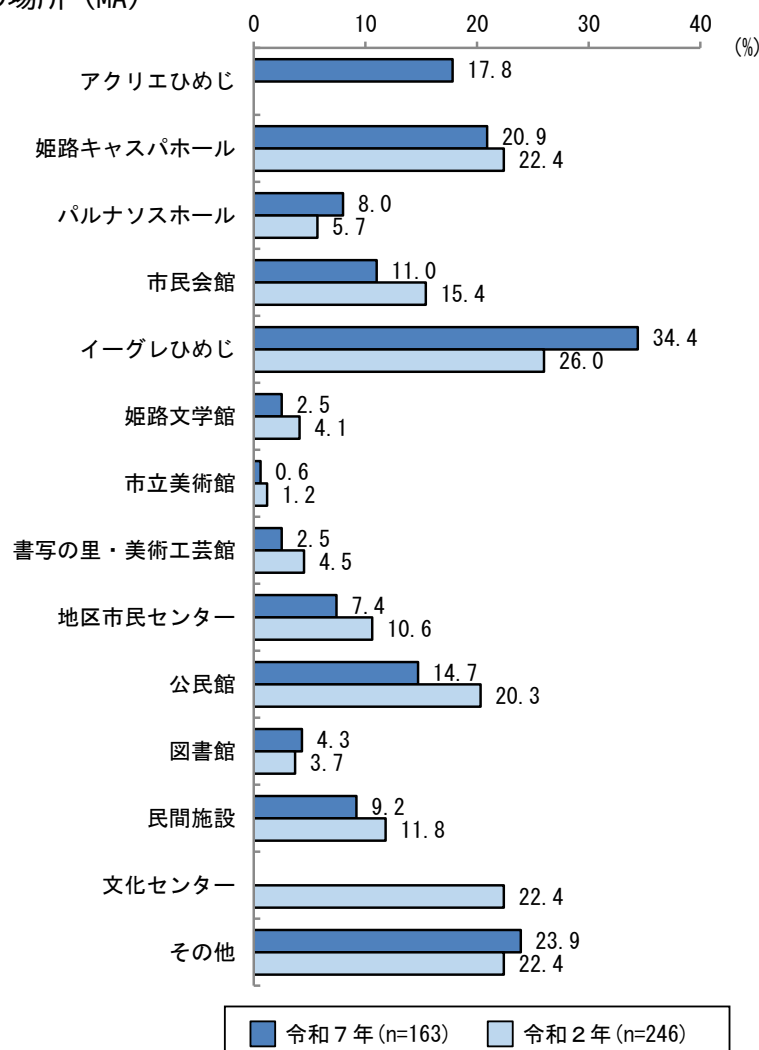


	n 数	ある	ない
令和7年	197 100.0	183 92.9	14 7.1
令和2年	274 100.0	257 93.8	17 6.2

5. 成果発表の場所（MA）

- 成果発表の場所については、「イーグレひめじ」が34.4%で最も多く、次いで「姫路キャスパホール」が20.9%、「アクリエひめじ」が17.8%となっています。
- 前回調査でも「イーグレひめじ」が26.0%で最も多く、次いで「姫路キャスパホール」と「文化センター」がそれぞれ22.4%、「公民館」が20.3%の順となっており、前回より「イーグレひめじ」が8.4ポイント増加し、「公民館」が5.6ポイント減少しています。

■成果発表の場所（MA）



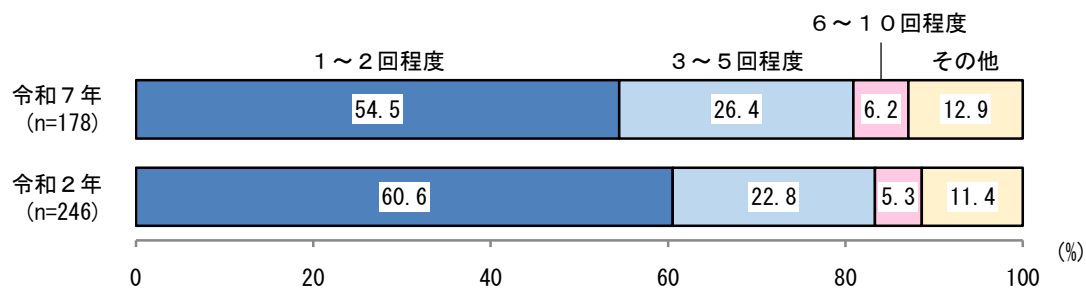
	n 数	ア ク リ エ ひ め じ	姫 路 キャ ス パ ホ ール	パ ル ナ ソ ス ホ ール	市 民 会 館	イー グ レ ひ め じ	姫 路 文 学 館	市 立 美 術 館	書 写 の 里 ・ 美 術 工 芸 館	地 区 市 民 セ ン タ ー	公 民 館	図 書 館	民 間 施 設	文 化 セ ン タ ー	そ の 他
令和7年	163	29	34	13	18	56	4	1	4	12	24	7	15		39
	100.0	17.8	20.9	8.0	11.0	34.4	2.5	0.6	2.5	7.4	14.7	4.3	9.2		23.9
令和2年	246		55	14	38	64	10	3	11	26	50	9	29	55	55
	100.0		22.4	5.7	15.4	26.0	4.1	1.2	4.5	10.6	20.3	3.7	11.8	22.4	22.4

※「アクリエひめじ」は今回調査の新規項目。
「文化センター」は前回までの調査項目。

6. 成果発表の頻度（SA）

- 成果発表の頻度については、年に「1～2回程度」が54.5%で最も多く、次いで「3～5回程度」が26.4%、「6～10回程度」が6.2%となっています。
- 前回調査でも年に「1～2回程度」が60.6%で最も多く、次いで「3～5回程度」が22.8%、「6～10回程度」が5.3%の順となっており、前回より「1～2回程度」が6.1ポイント減少し、「3～5回程度」が3.6ポイント増加しています。

■成果発表の頻度（SA）

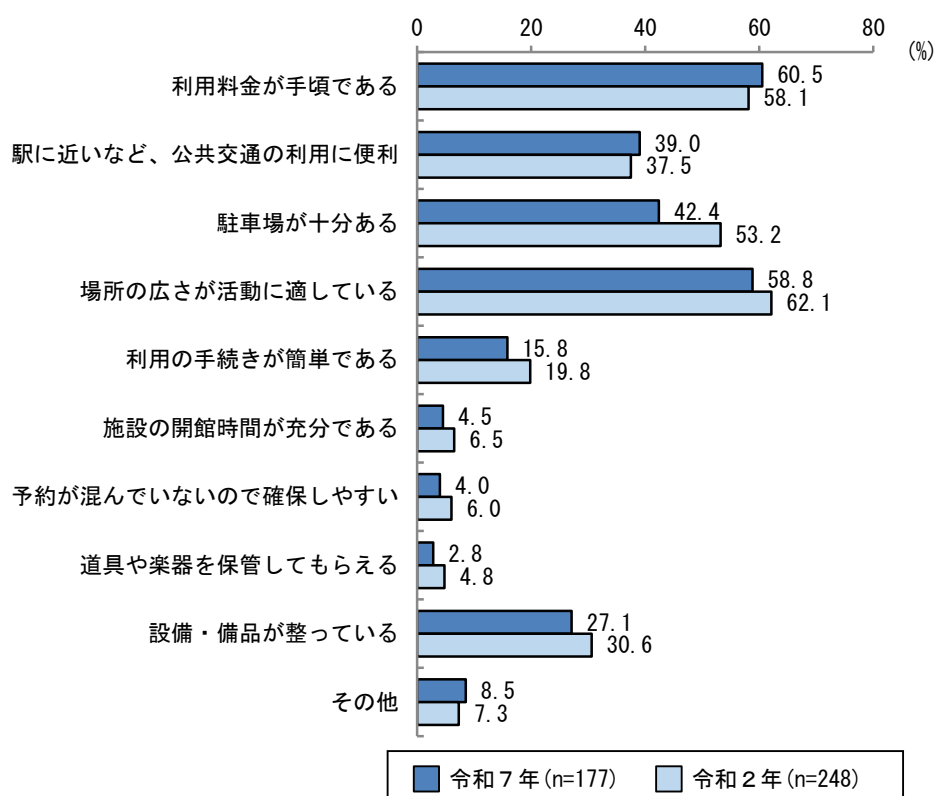


	n 数	1 ～ 2 回 程 度	3 ～ 5 回 程 度	6 ～ 1 0 回 程 度	そ の 他
令和7年	178	97	47	11	23
	100.0	54.5	26.4	6.2	12.9
令和2年	246	149	56	13	28
	100.0	60.6	22.8	5.3	11.4

7. 成果発表の場所として重視すること（MA）

- 成果発表の場所として重視することについては、「利用料金が手頃である」が60.5%で最も多く、次いで「場所の広さが活動に適している」が58.8%、「駐車場が十分ある」が42.4%、「駅に近いなど、公共交通の利用に便利」が39.0%となっています。
- 前回調査では、「場所の広さが活動に適している」が62.1%で最も多く、次いで「利用料金が手頃である」が58.1%、「駐車場が十分ある」が53.2%の順となっており、前回より「駐車場が十分ある」が10.8ポイント、「利用の手続きが簡単である」が4.0ポイント減少しています。

■成果発表の場所として重視すること（MA）



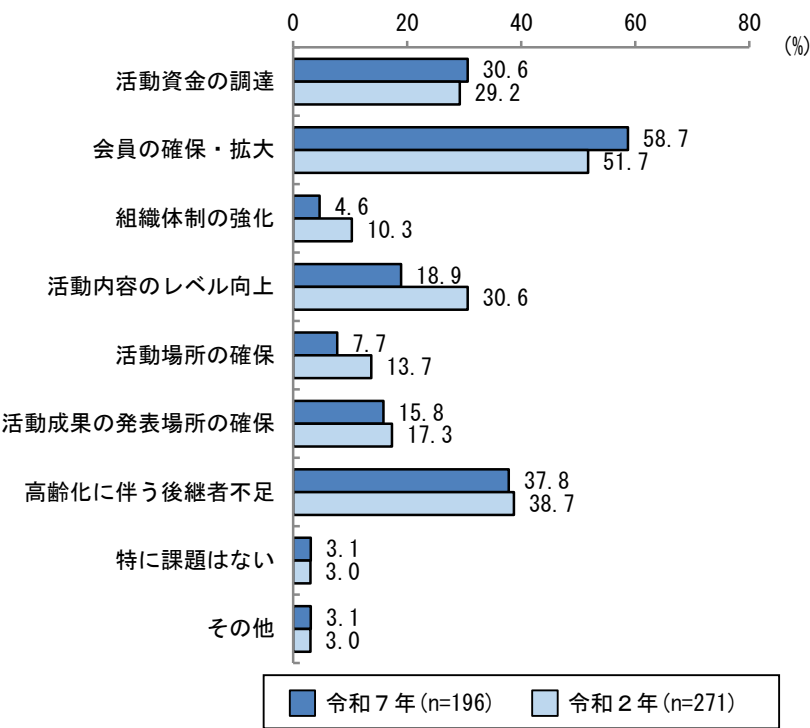
	n 数	利用 料金 が手 頃で ある	用 駅 に 近 い な ど、 公 共 交 通 の 利	駐 車 場 が 十 分 あ る	る 場 所 の 広 さ が 活 動 に 適 し て い	利 用 の 手 続 き が 簡 単 で あ る	施 設 の 開 館 時 間 が 充 分 で あ る	し 予 約 が 混 ん で い な い の で 確 保	る 道 具 や 楽 器 を 保 管 し て も ら え	設 備 ・ 備 品 が 整 っ て い る	そ の 他
令和7年	177 100.0	107 60.5	69 39.0	75 42.4	104 58.8	28 15.8	8 4.5	7 4.0	5 2.8	48 27.1	15 8.5
令和2年	248 100.0	144 58.1	93 37.5	132 53.2	154 62.1	49 19.8	16 6.5	15 6.0	12 4.8	76 30.6	18 7.3

IV. 活動への意向

1. 活動に関する課題

- 活動に関する課題については、「会員の確保・拡大」が58.7%で最も多く、次いで「高齢化に伴う後継者不足」が37.8%、「活動資金の調達」が30.6%となっています。
- 前回調査でも、「会員の確保・拡大」が51.7%で最も多く、次いで「高齢化に伴う後継者不足」が38.7%、「活動内容のレベル向上」が30.6%となっており、前回より「会員の確保・拡大」が7.0ポイント増加し、「活動内容のレベル向上」が11.7ポイント減少しています。

■活動に関する課題

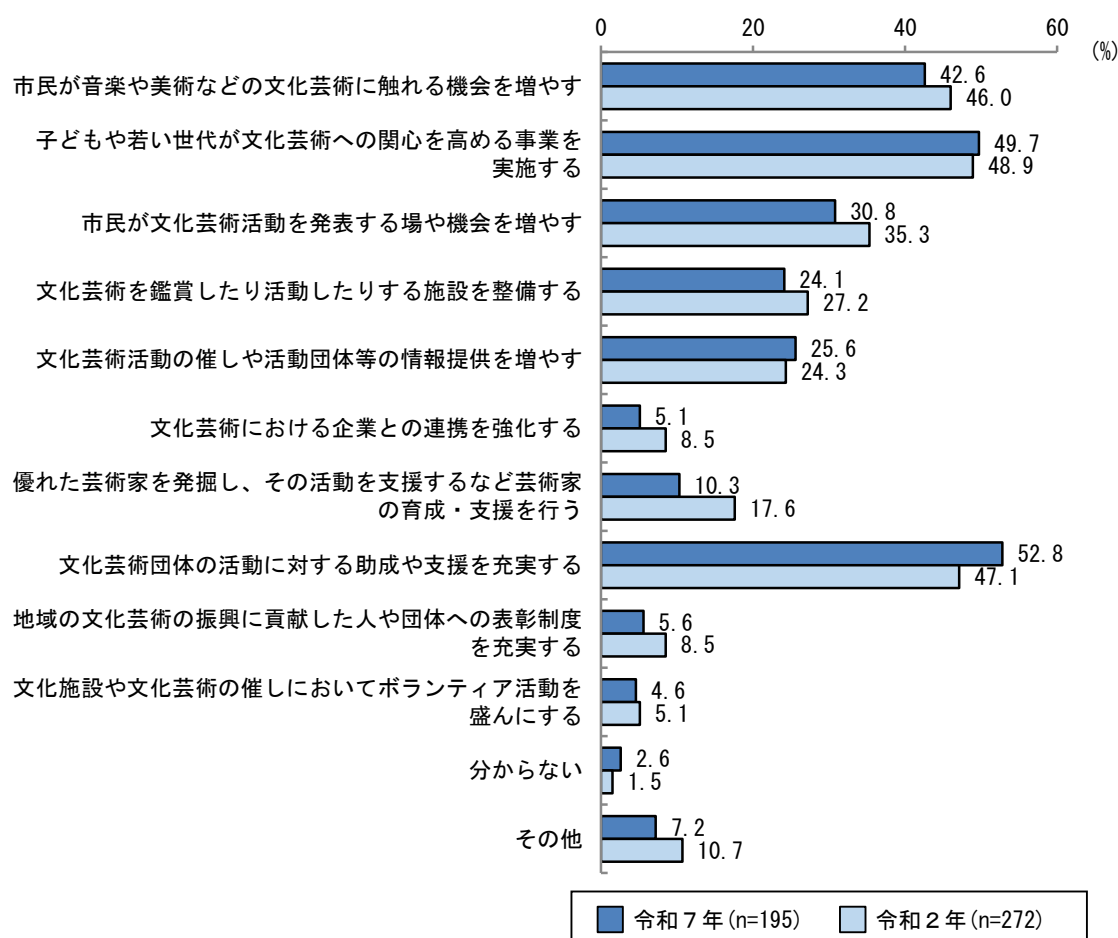


	n 数	活動資金の 調達	会員の確保・ 拡大	組織体制の 強化	活動内容の レベル向上	活動場所の 確保	活動成果の 発表場所の 確保	高齢化に伴う 後継者不足	特に課題は ない	その他
令和7年	196 100.0	60 30.6	115 58.7	9 4.6	37 18.9	15 7.7	31 15.8	74 37.8	6 3.1	6 3.1
令和2年	271 100.0	79 29.2	140 51.7	28 10.3	83 30.6	37 13.7	47 17.3	105 38.7	8 3.0	8 3.0

2. 市が力を入れるべき施策（MA）

- 市が力を入れるべき施策については、「文化芸術団体の活動に対する助成や支援を充実する」が52.8%で最も多く、次いで「子どもや若い世代が文化芸術への関心を高める事業を実施する」が49.7%、「市民が音楽や美術などの文化芸術に触れる機会を増やす」が42.6%となっています。
- 前回より「文化芸術団体の活動に対する助成や支援を充実する」が5.7ポイント増加し、「優れた芸術家を発掘し、その活動を支援するなど芸術家の育成・支援を行う」が7.3ポイント減少しています。

■市が力を入れるべき施策（MA）



	n 数	市民が音楽や美術などの文化芸術に触れる機会を増やす	子どもや若い世代が文化芸術への関心を高める事業を実施する	市民が文化芸術活動を発表する場や機会を増やす	文化芸術を鑑賞したり活動したりする施設を整備する	文化芸術活動の催しや活動団体等の情報提供を増やす	文化芸術における企業との連携を強化する	優れた芸術家を発掘し、その活動を支援するなど芸術家の育成・支援を行う	文化芸術団体の活動に対する助成や支援を充実する	地域の文化芸術の振興に貢献した人や団体への表彰制度を充実する	文化施設や文化芸術の催しにおいてボランティア活動を盛んにする	分からない	その他
令和7年	195 100.0	83 42.6	97 49.7	60 30.8	47 24.1	50 25.6	10 5.1	20 10.3	103 52.8	11 5.6	9 4.6	5 2.6	14 7.2
令和2年	272 100.0	125 46.0	133 48.9	96 35.3	74 27.2	66 24.3	23 8.5	48 17.6	128 47.1	23 8.5	14 5.1	4 1.5	29 10.7

V. 姫路市の文化芸術振興について

1. 姫路市の文化芸術振興についての意見（FA）

- 姫路市の文化芸術振興について、自由記入欄を設けて意見を伺いました、
- 複数のご意見が含まれるものは内容により分割後、分類しています。

文化芸術団体の活動に対する助成や支援について
文化芸術は人間性を豊かにする。近年財政赤字の影響で予算・人員等が削減される傾向にあるが世界遺産のある町・姫路を世界に発信するため文化芸術の振興にさらに取り組みを進めていただきたい。
文化芸術団体の活動に対する助成や援助をもっと充実してほしい。手続きの簡素化を検討してほしい。
保存芸能界同士の交流の場の手助けをお願いします。簡単な資金援助等を含めてですが、若い人とのギャップが大きいように思われます。
文化芸術振興財団が発足して以来、表彰制度がありますので、その基準が少し理解に苦しむようになってきました。
①財団の補助金決定について具体的な基準の明確化 ②市主催のイベントで会場優先されるのは民間関係の場を狭めることになるので考慮してほしい。
いずれの会場も使用に必要な費用が高すぎる。特にホールの場合委託業者に支払う人件費・機材代などが高すぎて1000から2000円程度の入場料ではまかなえない。命に係わるほどの暑さになる近年の夏シーズンであるが、エアコンを使用すると5割増しとかの料金設定は見直すべきである。
以前の市民文化祭に戻してください。補助ももらえずにアンケートとるなんてひどいです。金がないと何もできません。使用料が高くて市民が使えないのは意味ないやん！
補助金制度の継続充実を期待します。文化芸術賞等の表彰は姫路市民に限定せず姫路市を拠点に活動している近隣住民を対象としていただき、公平公正な観点で選んでいただきたいと希望します。
たいへんお世話になっております。予算をいっぱいとってください。
いつもいろいろな面においてサポート体制がしっかりとっていて安心な場所であると思います。今後も姫路の文化を盛り上げてほしいと思います。当団体にご支援をいただきありがたく思っております。補助金申請や請求の書類が多く年々負担に感じてきました。簡略化しつつも不正などができないしくみを考えていただければと思います
補助金助成金の案内があるものの複雑でわかりにくい。もう少し簡素化した形ならありがたいが。アクリエでのリハーサル等のルールもかなりあり制約が多い。
海外との連携等ニュースになることに力を入れることもよいが、もっと市民の文化芸術振興へ人と金と情熱を注ぎこみ充実浸透を図ることを願う。
助成金の手続きを簡単に！ハードルを低く！
文化芸術振興助成金について現在はどうなっているのかわかりませんが、以前は助成金募集の広告を送ってもらっていましたが。2年に1度発行していた小冊子の助成金は全然該当しなかったようです。現在は発行を中止しています。昭和30年代から続いていた冊子ですがやはり規模が小さいとダメなんですね。残念です
市民文化祭等で以前のような補助システムが活用されることを望みます
少しは文学、美術、演劇に予算をさいてほしい。
書道が世界文化遺産に登録されたら振興としてどのような特典を賜えますか。
文化センター・市民会館がなくなりアクリエ姫路に利用が集中すると考えられるが、その利用料金が高額で学校利用における減免措置もなく市民の利用に難がある。また指定業者による管理に持ち主である姫路市が一切口を出せない契約は全く理解できない。市議会でも取り上げているのですから本腰入れて改革に取り組んでほしい。
美術関係にもう少しご尽力いただきたいと思います。発表の場、活動の場所の提供等もよろしくお願い致します。
視野を広げることに力を入れて欲しい。あと数年もすれば姫路で民謡する人が居なくなるかも。

趣味レベルの活動を支援する方策も文化芸術振興のためには必要で、裾野を広げることを念頭に置いた施策を期待する。
文化芸術団体の活動場所や機会について
播州祭り・屋台文化に関し、宗教云々といったナンセンスな事ではなく、地域固有文化の観点から全国・世界に PR できる施設の整備が必要であると思います。
・使用料について市民の市民以外の差別化してほしい。 ・会場人件費について市の補助をしてほしい
キャパ 100～200 程度の小ホールをいくつか作ってほしい。
市民会館、勤労市民会館、中地のスポ館、中地市民センターなどが閉鎖となる。これらにかわる施設が必要。手柄山には会館が必要
市民がつかいやすいホールを考えるべき。アクリエは音楽にはよいホールですが私たちにとってはつかいにくい。地域の文化発展にはマイナスの施設その声多し！
アクリエは市民に寄り添っていない価格音楽にとっては良いホールだが我々の分野ではつかいづらい。楽屋の位置も舞台側にあるべき。客席の後ろでは移動しにくい。市民団体にとってはきりすての文化施設であります。
姫路に在住しながら発表の場を東京・大阪などでしている人も多数います。活動の場が姫路だけでは発展がないからだと思います。
姫路市立美術館のギャラリーの一部を一般開放してほしい。
活動成果発表の施設の数を増やしてほしいし、施設利用料金をもっと安くしてほしい。
新しい文化を無理に築こうとせず、これまでに根付いている文化こそ大事にしてほしい。アクリエ大ホール 2F の 0 音量が悪い、床の足音がうるさい。
アクリエホールの入口について、今徒歩、自転車の人南から入るようになっている。（車は別として）北方から来る人も割合として結構多いと思うが、一個所だけは辛い。強風や大雨の時くると回るのは距離もあり大変なんですよ！一度市長とお話してみようと思いつつ…北からも入れる方法を是非考えて欲しい！
文化センターがなくなり安くて使いやすいホールがなくなりました。市民会館もなくなると聞きました。市民が使いやすいホールを作してほしいです。
茶道裏千家でいつもお世話になりありがとうございます。いつも市民会館を使用させていただいておりますが先では使えなくなるということで大変心配致しております。アクリエはなかなか借りれないようですので。
JR 姫路駅のコンコースを使つてのイベントを企画して頂くことも一考かと思います。華道では年末年始にかけての迎春いけばな展示など。
姫路市のどの団体も参加できる芸術祭を開催してほしい。
手軽に使える施設を増やして欲しいです。新しい施設があっても交通の手段が悪く来て頂くにも駐車場があまりなかったり高いと困ります。
アクリエ出来て立派な演奏家によるコンサートはできても一般市民の活動の場、発表の場としては費用や駐車場の不備などで利用しにくい。市民の活動が盛んであることこそが大切であると思う。ヴァイオリンのコンクールを催すと聞いているがそれに伴うピアノの練習部屋や宿泊施設などの準備は進めておられるのでしょうか。提案として姫路高校の移転の後の校舎を耐震、防音など必要なリフォームを施した後大中小などの練習室、小さなホールなどを作りコンクール以外の日常には市民が気軽に利用できるような施設にされてはどうでしょうか。
練習場所としてのアクリエひめじ（スタジオ）や発表場所・アクリエひめじ（ホール）などの施設が新設されよろこんでおります。願わくば施設管理の方向性が施設に傷をつけない、汚さないなどの保安全管理の方ばかりに傾くのではなく有能、有意義な文化芸術創造の取り組みへの賛助となるよう協力していただきたいと考えております。
発表場所として「アクリエひめじ」のミニ施設が欲しい。具体的には①来賓の室（1～5名分）②発表者の着替室（30～50名）③友情出演者の部屋（30～50名）④プロ歌手の室（4～5名）⑤楽器演奏者（5～10名）の部屋⑥接待者（2～5名）の室等の確保。駐車場100～200台収容。2次会（懇親会）会場の設置（100～200名）、（40～100名）会員相互の交流懇親、友情出演者へのお礼の為の飲食可能施設の設置（一般業者導入可能とする常設）。単独発表会でも2次会（懇親会）を楽しみにしている人が多いため。発表会申し込みの簡便さ及び使用料の安価さを要望したい。
多くの団体を固まる事なく発表の場を作っていけるとありがたい。
いけばなの団体です。いけばなを展示するにあたり、養生をしていても、水を使う団体には施設を貸せないと言われることがある。発表の場が狭められないように、公共の多目的スペース（部

屋の大きさが大小あれば尚良い)を駅近くに何カ所か作って欲しい。駅近であれば、会員以外に他府県の支部にも案内でき、見に来てもらいやすくなる。観光にもつながる。市のロビーや駅などにも定期的にいけばなを展示できるスペースを作って欲しい。外国人観光客が増えている今、日本の伝統文化である「いけばな」でおもてなしをしたい。華道が登録無形文化財になっても、発表の場がないと、ますます衰退の一途を辿ることになる。単一団体での活動でなく、いけばなの流派全体で盛り上げていきたい。
次世代など文化の担い手の育成について
美術館での作品展や高齢者向けの老大などの教室なども実施されているが若い人向けの芸術文化の振興がされていないのではないか。私がかかわっている高校生の作品展なども他生の会場費の引ききくらいでとても援助といえるものではなく、担当者が自腹を切るなどして対応している。幼少中高校を問わず芸術に興味・関心の高い子供や若者は多い。会場を無料で貸すなどそれにかかわる人材を育成するなどの努力があってもよいのではないか。
文化技術の催しについて学生等を無料にしていける。
子どもや若い人たちに伝統文化を体験できる事業を継続して実施してほしい。それらの事業の続きとしてイベント演奏会等につなげて後世への警鐘を持続可能にしたい。
若いグループが利用しやすいシステムができるといいと思います。
今は年齢的に無理ですが若い方々が関心を示して手伝ってくれることを願っています。
文化度の高い未来の子供たちの育成も急務と考えます。
文化芸術振興の演出家が必要。たずさわる人同士コミュニケーションが育ってほしい。
子供や成人たちとのコラボ、各ジャンルとのコラボの育成、私たちは子供たちとの絵画展とグループの音楽で合同イベントを20年程しています。子供たち特に園児たちの音楽や演奏の素晴らしさ各イベントでもこの世代の子供たちの園内に限らず発表の場を、新芽を大切にそだてあげたいと思います。
「熟年」の選者を務めさせて頂いていますが、若い世代との繋がりが難しく試行錯誤しています。
市民が気軽に文化芸術に触れる機会について
関係者による常設展示。一般の人知ってもらえる機会として文化祭的なものがあったもいいかもしれない。
世界遺産の姫路城下での事業は姫路市にとって最もふさわしいと思う。
2023年の平成中村座の公演は大きな反響がありました。だれもが注目し興味を持ってもらえるような機会が増えたらよいと思います。
作品の発表の機会があれば良いかと。(地元の作家を中心とした)
播州音楽祭をはじめ市民文化祭が廃止され安くて参加しやすい市民交流の機会が減ってしまいました。市民文化祭を復活させ、市民が交流しやすい機会を保障してください。
老若男女気軽に文化活動を体験できる場を増やしてほしい。
若い世代にも気軽に参加できたらいいと思う。会費とか場所の援助があればいいと思う。
こんなアンケートを意見を書けていいと思います。子供達への無料(材料代のみ)体験などして、それぞれの芸術体験をイーグレなどでできたら喜ばれると思います。中学校が部活が無くなると聞いているので…芸術方面で活動ができる場所が増えればと思います。
日本や地域文化の継承について
姫路には全国に知られる「播州皿屋敷」と美空ひばりが出演した映画・歌「お夏清十郎」の人形浄瑠璃がありその伝統は何百年と現在も上映されているがそれを知らない人も多い。姫路城にはお菊の井戸もあり、また姫路城平成中村座において歌舞伎で上映された。人形浄瑠璃播州皿屋敷を私たちでお城まつりや観月会で上演させてほしい。
他市の例でいえば市が主宰している音楽祭や演奏会等の運営を地元出身の音楽家に託していく流れも出てきている。姫路市主催の演奏会等を専門知識を有している地元の音楽家たちに運営してもらえるようなシステムづくりや支援体制をさらに充実していただきたい。
人口減少縮小社会への向かう未来にあって経済効率等で判断することなく文化芸術の灯を消してはならないと思います。
日本の伝統文化の振興に力を入れていただきたいと思います。ご努力に敬意を表します。
当地の歴史や芸術に力をそそいだ人々を大切にその名を人材を後世に伝えることと人を大切にしていきたい。例えばケンゾウさんや米朝さん・世界を日本国宝の誘いある街である PR 不足。人材を守り見捨てないことが街の顔となりますように失礼な文章にてお許し下さい。

たくさんの文化芸術がありますが、個別の文化芸術の助成・支援よりもそれぞれの文化芸術が持っている特性・長所を複合的に生かすという発想の追求が、これからは必要になって来るのだと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。
文化芸術の発信、ギャラリー（市民プラザ）をオープンな形にしていく通りがかった方が入れるように本町商店街展示して姫路城を見学に来られた方がのぞいてみようかという掲示日本ローカルな文化を外国の方にキャッチしてもらう発想が大切。ローカルな文化活動も魅力あるコンテンツの一つだと思う。
最近地方創生という言葉を目にします。現在、地方の文化において、地産の文化や芸術活動は逼塞への方向が著しく、将来の地方文化に対する危機感は否めない。地方の経済力低下事情も要因の一つであろう。しかし折角作った箱ものには、他社から集めた金ピカの高額文化優先。貧乏な地域文化は人知れず田舎舞台を頼る他ない現実もある。金ピカも是としつつ、地域の芸術文化育成の種まき、行政の力添えが待たれている筈。たとえ壊れかかったモノにも手を差し伸べる姿勢が欲しい。市長さん頑張れ！！
相談や連携、振興策など市の対応について
姫路市が文化芸術振興についてその必要性に対する認識が希薄である。トップ以下がもっとその価値について意識し実践すべき。姉妹都市である松本市の取り組みに学ぶべき！！
最近市立美術館の来館者の減少に危機感をいだいておられるように思います。問題点をあげますと、一つは美術館と市民が利用する展示場（イーグレ）が離れていること。二つ目は美術館内に絵画や芸術文化に関する市民が利用できる学びの場がないことです。
古代からの大切な行事等は補助も含め振興の割合を強化してゆく必要あり。
いつもいろいろな面においてサポート体制がしっかりとっていて安心な場所であると思います。今後も姫路の文化を盛り上げていってほしいと思います。
市美術館の企画が市民感覚とかけ離れている。もっと身近な企画が欲しい。入場者数を増やす努力をしてほしい。
姫路市内で活動する人物・団体だけでなく広く播州地域の全体に視野を広げて活動を支援・助成して下さる点はとてもありがたく感謝している。姫路文化圏ではなく播州文化圏とでも申すべき高い意識見識に敬意を表したい
文化振興に関する情報発信について
展示会や演奏会など芸術文化に関するイベントの情報をよく目・耳にする媒体で発信し、多くの方に興味を持っていただけたら嬉しいです。
文化芸術のまち姫路を世界に発信する。
市民会館が閉鎖する話が出ているようですが、使用しているものにとっては大変べんりです。大小の部屋があり、もっと使用してもらうように情報提供すべきでは
若い人たちにも文化活動に興味をもって参加してもらうため、活動内容や状況を知ってもらう場を作してほしい。
アクリエで色々と講座をされているそうなので皆に情報が行き渡らない。今回のようにグループに連絡もらってやってみようと思いました。知らなかったのが残念です。
会員（組織）は、沢山あるのに何か会を開催する時は、いつも大体決まった団体しか参加してない。と言う事は幅広く広報（働きかけ）が出来ていないのではないかと思います。まず端から端まで声かけをしていって下さい。知らない間に開催されている事がよくある。
市として音楽に力を入れていることについて
市長がいつもテーマに上げる”音楽、うたの街姫路”忘れないように、ますます輝いて欲しい！
「音楽の町、姫路」を活動の中心に見据え行動している。
その他
姫路市の財政状況を考えると、芸術文化に対する予算については難しい点はわかるのですが、心豊かな暮らしやすい街づくりの観点で申し上げれば、特に若年層の文化活動の支援はカットすべきでないと考えます。
私達の活動は他のグループの方々との活動は少し違っております。外国にルーツを持つ子供達（保護者も）が、自分は自分で良いんだと自信を持って日本で学習をしたり地域社会で生活してほしいと考え活動しています。それぞれの母国の（日本も）伝統文化を学び会に参加した友達や保護者の前で披露しお互いの国のことを知り理解できる場の提供をしています。
規則や規律を守りながらも型にはめないように柔軟に対応していける体制づくりや風土づくりが大切であり、皆でつくり上げていくことが文化芸術振興になると思います。